

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果より

我孫子市立湖北台西小学校

平成28年4月19日 実施

◎学力について

問題A：主に「知識」に関する問題

問題B：主に「活用」に関する問題

1 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果

① 自校の取組の成果

- ・国語B問題では、全国平均をやや上回っている。

←全学年共通の家庭学習として、毎日音読に取り組んだ成果といえる。

国語科読むことを中心とした授業改善により、読む力がつき、問題文や問いの文を正確に理解する力がついてきたと考える。その結果、求められている解答を書くことができるようになってきたと考えられる。

- ・国語A，算数A，算数Bすべての問題で平均得点率が全国平均に近づいている。

←学習規律の定着により、学習に取り組む姿勢が身に付いたことが大きい。

←少人数指導とTTによる個別指導で、様々な学習課題に、全員が取り組めるようになったことの成果といえる。

個別指導では、休み時間や、放課後学習の時間も活用して、担任やスクールサポートと教員が最後まで子どもの学習に寄り添うことで、基礎学力をつけている。

② 結果から見えてきた課題

- ・国語B問題では得点分布が二つに分かれている。

←高得点をとる児童と、そうでない児童の二極化の傾向がややみられる。

- ・算数B問題では、得点率が低い。

←家庭学習では「一人で取り組めるもの」を課題としており、基礎的な練習問題には対応できるが、応用力がつかない。

←学校での学習も基礎基本の定着を優先にしているため、発展的で応用的な学習課題に取り組む時間が少ない。

2 今後の取り組みの重点

①家庭学習の継続から一歩先へ

今までの家庭学習に、予習となる課題を加える。例えば、次時の学習内容を音読し、着目すべきところに線を引くなど。このことにより、基礎的な学習の定着の時短を図る。

②発展的、応用的な授業への改善

授業と関連付けた課題を家庭学習とする。このことで、一層家庭学習の意欲を高めると同時に学校での学習の意欲も高める。

③学び合う学習集団を育てる学級経営

教師と児童の人間関係づくりを前提とし、児童同士のより良い人間関係を築く学級経営を行う。学習中に多くの友だちの考えに触れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることにつながるために、学習中と生活のあらゆる場で、お互いの考えを認め合える人間関係を構築する。学び合う学習集団を育てることで、児童間の学力差を縮めて、集団としての学力向上を目指す。